

「われわれ」の解体の中で

生きるつながりの探求

他者・信仰・文学

伊藤述史

A5版上製 304ページ 定価39600円(本体36000円+税10%)

本書は『歴史と思想——時代の深層から』第3部に引き続き、思想の書である。

本書の構成 第一部「私と他者」 第二部「信仰から文学へ」 第三部「作家論」

第一部「私と他者」 人は常に他者との関係における非対称性に悩まされる。けれども一人では生きてはいけないのみならず、他者がいなければ喜びや悲しみ、そして孤独さえも感じることはできない。リスクとしての他者との関係を生きたつながりとして再構築する希望はあるのだろうか。そこで問われるのは、他者からの訴えに発する倫理の問題なのだ。人と人とのつながりを考えていくうえで現在の状況が課してくるのは、倫理の根源性をどこに求めていくべきか、という点である。

第二部「信仰から文学へ」では、文学者として遠藤周作、小川国夫、坂口安吾の諸氏を取り上げる。信仰の面では、キリスト教と親鸞が問題となる。いずれの場合も、人が人を求めるつながりの機制が論じられる。小説と論説に表現された信仰のひとつの極限の形に輪郭を与えてみた。坂口安吾については、人間の善と悪をめぐる安吾の論説を中心に、親鸞と関連づけながら彼らの人間観を見つめる。

第三部「作家論」では、埴谷雄高を扱う。埴谷の文学作品については、『死霊』を中心に一般にきわめて観念的な印象を受ける。けれども本書で明らかにしているように、埴谷にあっても、究極的に生身の他者の繰り込みが問題とされている。

第二部と第三部において文学と宗教を対象となるのは、それらが私と他者、そして人と人とのつながりをめぐる人間の思惟を、さまざまな側面から限界まで表現できる人間の営為であるからである。

「私」という存在が他者という存在の否定に責任があるかもしれないことに気がつくときに、「私とは何か」ではなく、「何が私であるのか」と問わねばならないだろう。人と人とのつながりを求めるには、イデオロギーや道徳などではなく、ただ「信頼」があればよいのかもしれない。苦しむ人とともに苦しむことにあつては、自他の個性を根本的にかげいのないものとして尊重することが求められている。

想像力の自由な、しかし倫理的な舞台がここにある。



発行所 (株) 千書房

〒2222・0011

横浜市港北区菊名5・1・43 菊名KSマンション 301号

TEL: 045・430・4530 FAX: 045・430・4533

発売所 (株) 人文社会科学書流通センター「JRC」

〒101・0051

東京都千代田区神田神保町1・34 風間ビル1F

TEL: 03・5283・2230 FAX: 03・3294・2177

ご発注は(株)JRCまで FAX 03-3294-2177

(切り取り線)

注文カード	
取次店	書店名
注文数	冊
生きるつながりの探求	
——他者・信仰・文学	
伊藤述史著	
定価 3600 円+税	
発行所 千書房	
TEL 045-430-4530	
FAX 045-430-4533	
	
9784787300591	
	
1923030036001	
ISBN978-4-7873-0059-1	
C3030 ¥3600E	